



# PORSCHE CAYENNE

## 目指したのは SUVの最高峰

スーパーカー・メーカーであるポルシェが作ったカイエンはそれまでのSUVの常識をあらゆる面で超えるものだった。圧倒的なオンロードパフォーマンスは言うに及ばず、多機能な電子制御のメカも、贅を尽くしたインテリアも、そしてオフロード走破性においても妥協はないのだ。

文/佐藤優彦 写真/佐久間清人



①カイエンターボは車高調整式のアアサスに減衰力可変ダンパーを組み合わせた電子制御の脚を持つ。②300km/hまで刻まれたスピードメーター。ひとたびアクセルを踏めば、決してこけおどしではないことが分かる。③スポーツカーであると同時に高級車でもある。使用される本革の品質は高い。

①4.5リッターV8ツインターボは、前期型で450PS、後期型では500PS(ターボSは550PS)まで進化した。ちなみにV6は前期型が3.2リッター、後期型は3.6リッターとなる。②6速ATのティフトロニックはMT並みのレスポンス。③チューニングカーのような4本出しマフラーもターボモデルの特徴。



### 最強の宿命を背負ったスーパーSUV

あのポルシェが、SUVを作る…。そんな噂が出始めた頃、ポルシェファンもSUVファンも、「眉唾」な話とまともに取り合わなかった。それほど、ポルシェはSUVとはかけ離れた存在だったわけだ。

しかし、現実にポルシェはSUVを作った。メルセデス・ベンツMクラスやBMW X5が築いたユーロSUVのカテゴリーでも、ひとときを輝く至高の一台。スポーツカーブランドとして、様々なモータースポーツを席卷してきたポルシェだけに、オンロード性能が飛び抜けていることは、容易に想像できた。

ポルシェが初めて作ったSUVは、我々の想

像を遙かに上回った。ポルシェブランドのデザインキーを、SUVスタイルに落とし込んだ手際はまさにお見事。4.5リッターV8ツインターボを筆頭に、NAのV8、3.2リッターV6に至るまで、クラスを超える圧倒的スペックを誇るエンジン群も、SUVとスポーツカーの垣根を取り払うにふさわしいものだった。

なにより驚いたのは、オフロードにも一切の妥協を廃して臨んだことだ。おごりな4x4システムではなく、ローレンジを備えた多機能なトランスファーを搭載。最上級のターボモデルには、車高調整機構付きのアアサスベンションまで用意した。

ポルシェ初のSUVは、同時にポルシェ初の

4ドア車でもあった。そのため「SUVに興味はないが、4ドア車は欲しい」というポルシェファンの支持も厚かった。むしろ大半がオフロード性能など必要としない層だったろう。ポルシェもユーザーが何を求めるかは、分かっていたはずだ。しかし「ポルシェが作る以上、どの分野でもナンバーワンを目指す」という信念が、カイエンに、本格オフローダーに匹敵するオフロード性能を与えさせたと言える。圧倒的なオンロードパフォーマンスと、卓越したオフロード走破性。一流ブランドのプライドを、当時のSUVを取り巻く環境が後押しして生まれた奇跡のクルマ。それがポルシェ・カイエンだ。

この車種の認定中古車物件を探す